

卒業・就職・入学のシーズンです。春の陽気が新しい一歩を踏み出す皆さんを祝福するかのようです。

現在会員登録数 3,689 人さま。次号は 4 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 「第 18 回 国際グリム賞 贈呈式・記念講演会」

オンラインで開催した、「第 18 回 国際グリム賞 贈呈式・記念講演会」を、当財団 YouTube 公式チャンネルで公開しました。

記念講演 「21 世紀における中国児童文学の創作と研究の潮流」

講師：〈受賞者〉朱自強 教授（中国海洋大学教授）

日本語字幕：浅野法子さん（大阪成蹊短期大学准教授）

*こちらからご覧ください↓

<https://youtu.be/rFrmSeXxuhw>

● 特別講演「お話の種の育て方」（第 38 回 日産 童話と絵本のグランプリ）

「第 38 回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式で実施した特別講演「お話の種の育て方」を、当財団 YouTube 公式チャンネルで公開しました。

特別講演「お話の種の育て方」

講師：富安陽子さん（童話作家、「日産 童話と絵本のグランプリ」審査員）

*こちらからご覧ください↓

<https://youtu.be/0hvIFhcmlkQ>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

*年間 1 万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>
公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ぼくたちのスープ運動 小さな思いやりが世界を変える！』 ベン・デイ
ヴィス/著 渋谷弘子/訳 評論社 2022年2月 対象年齢：中学生以上

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

あらすじ：13歳のジョーダンは、がんを克服して退院し、転校して新しい中学校に通っているが、入院中の親友リオを恋しく思っている。リオはジョーダんに「ミツヴァー」を実践していると言い、それは人にいいことをすることだと言う。ジョーダンは転校先の中学で自分もいいことをしようと、ママが昼食に作ってくれたスープを自分が飲まなかったのでホームレスの人のテント前に置いておく。そこから姉や級友を巻き込んでホームレスの人へのスーププレゼントの輪が広がっていく。

T：小さな活動がどんどん広がって市民運動になっていく様子を興味深く読みました。

Y：私が一番おもしろかったのは、ジョーダンのリオとの過去（「ぼくの病院日記」）と新しい学校での体験が交互に出てくるという巧みな構成でした。

T：それが最後に一つになる。うまいですね。

Y：もう一つ、最近、グレタ・トゥーンベリさんやマララ・ユスフザイさんのように、子どもたちが社会に向かって運動をすることが注目されていますが、この作品も「スープ運動」というタイトルにあるように、ジョーダンたちがホームレスの人たちの問題にかかわり、改善のために闘う姿が描かれています。

T：それを応援する校長先生がヒッピー世代で、市民運動にかかわっていたような人物として描かれています。

Y：ホームレスのハリーはイラク戦争で親友と自分の片足を失い、PTSDになっています。この作品の背景に「戦争」も描かれています。

T：ジョーダンがハリーに出会ったきっかけは、ジョーダンをいじめるウィルです。ウィルがいることでジョーダンは苦しみますが、自分ががんであったことを最初に告げる相手がウィルだというのがストーリーをおもしろくしています。そして、そこでウィルがいじめている理由がわかるという展開も、いい子と悪い子がいるという描かれ方ではなく、納得して読みました。

Y：このスープ運動が広がったのは、ジョーダンのお姉さんのアビの力です。

T：病気の子どもがいる家族のきょうだいは、本当にたいへんです。そんな中で、スープ運動を撮影して発信することで、アビは自己実現をしていきま

す。

Y：とっても現代的ですね。病室で親友になったリオが、自分の病気を見つめながらジョーダンと深い絆を結ぶ様子も心に残りました。

T：作者は「コメディアンとして活動したり、放送作家として台本を書いたりしていた」（著者紹介）とのこと。会話がユーモラスで、深刻なテーマを興味深く読むことができました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第79回「茨海小学校」

狐の棲む異界への迷走

ある日曜、農学校教師の〈私〉は、火山標本を採るためと野生の浜茄が群生しているという噂を確かめるため、〈海から三十里もある山脈を隔てた〉茨海という野原へ出かけます。火山標本は半日かかって何とか一つ見つけたものの、浜茄は結局見つけることができませんでした。お昼ご飯のパンを食べるために水を探して歩き回っていると、向こうの方から学校のベルの音や子どもたちのがやがやいう声が風に乗って流れてきます。

そちらの方へ走っていくと、〈私〉は幾度も草で拵えたわなに足をとられて倒れ込みます。仕掛けたのはきつねの子どもたちで、そこは〈茨海狐小学校〉でした。〈黄金いろ〉の眼をした狐の校長先生と会った〈私〉は、午後の授業を参観することになります。第一学年は修身と護身、第二学年は狩猟術、第三学年は食品化学で、高度な内容に〈私〉は感心しますが、いずれも狐の側から授業が行われており、次第に〈頭がぐらぐら〉するようになります。

参観を終えて校長室に戻った〈私〉に、校長は火山弾の寄附を所望。やむなく応じた〈私〉に校長は〈ではさよなら〉といい、私は逃げるように狐の学校から立ち去ります。茨海の野原に戻ってようやく落ち着きますが、〈で結局のところ、茨海狐小学校では、一体どういう教育方針だか、一向さっぱりわかりません〉と述べて物語は閉じられます。

授業（行為）の意味が狐と人間で逆転する構造は、「注文の多い料理店」を想起させ、狐小学校という舞台は「雪渡り」と同一です。また、物語に示されている、これは〈私〉が〈狐にだまされたの〉では決してなく、狐小学校が〈みんな私の頭の中にあった〉と言っても〈決して偽〉でもない、〈もしみなさんがこれを聞いてその通り考えれば狐小学校はまたあなたにもある〉という主張は、童話集『注文の多い料理店』序に通じると言えます。

ところで、狐の名前にいずれも「武」が付くことについては、物語の舞台とされる実際の地名（観武原）との関連や（米地文夫「賢治寓話『茨海小学校』とその背景」2006年）、作中に登場する絵雑誌『幼年画報』〈に出ていたたけし〉から童画家・武井武雄が連想されています（続橋達雄「『茨海小学校』」1996年）。しかし、賢治が弟を通じて原稿を持ち込んだとされる東京社の『コドモノクニ』はともかく、『幼年画報』への武井の作品掲載はこれまで確認されていません。モダンで洗練された画風の『コドモノクニ』とは異なり、どちらかといえば明治の香気を残す『幼年画報』を賢治が知っており、作品中にわざわざ

ざ誌名を引いていることに興味を覚えます。作者はなぜ『幼年画報』をわざわざ取り上げたのか、この時代の幼年雑誌群を紐解きながら考えてみたいテーマです。(ペ吉)

(本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 33

「きみ、なにしてんの？」

「戸をたたこうと思ってね。いま、きたとこ。」

「じゃ、ぼくがたたいてあげよう。」

プーは、こうしんせつにいうと、手をのばして戸をたたきました。それから、「—中略—それにしても、だれだか知らないけど、この家のひとは、なんてなかなか出てこないんだろ。」

そうして、プーは、もういちど、戸をたたきました。

「でも、プー。」とコブタがいました。「これ、きみの家だよ。」

「なんだ！」と、プーはいました。「そうだった。ま、はいろう。」

(『クマのプーさん』A. A. ミルン/作 石井桃子/訳 岩波少年文庫 岩波書店
1988年4月5日 第42刷 p.124-126)

『クマのプーさん』を読みなおす機会がありました。そして、この場面で思わず笑ってしまいました。というのは、自分が図書館で、あるテーマの本を借りようと検索したら、貸出中だったので、「あ、同じようなことに興味がある人がいるんだ」と思って、ふと気づくと自分が借りていたという、プーと同じような経験をしたばかりだったからです。

『クマのプーさん』のユーモアには、言い間違いや造語などの言葉のおもしろさ(ゾゾやモモンガーとミミンガーなど)、ナンセンスな歌、発言内容のおかしさ、会話のちぐはぐ、登場人物の失敗やむこうみずな行動など、枚挙にいとまがありませんが、今回読んで特に、「これって、自分のことだ」と思うことが多くあってそのことにも笑ってしまいました。

プーが、フクロの難しい言葉を使ってしゃべり続ける間、「ええ」と「いいえ」をかわり番に返事をしていた(p.85)という場面は、人の話を聞きながら、ふーっと記憶が薄れ、他の事を考えてしまっている自分に気付くことがあって、自分の態度とそっくりだと思いました。

プーとコブタが自分の足跡に怖がりながら木の周りをぐるぐる回り、それをクリストファー・ロビンに木の上から見られているという場面(「プーとコブタが狩りに出て、もうすこしでモモンガーをつかまえるお話」)も、自分では気づかず堂々巡りをしている自分と重ね、ちょっと身につまされましたが、「おひるの時間」に気持ちを切り替えるプーと同様、私もちょっとおいしいものを食べて元気になりました。(Y)

《4》 行って来ました！

美術館「えき」KYOTOで3月27日まで開催されている「安野光雅追悼展 安野先生のふしぎな学校」に行ってきました。画家の安野光雅さん(1926-2020)は、復員後、小学校の教師をされていた時期があるそうです。この展覧会では、安野さんの作品を「朝の会」「こくご」「さんすう」「ずこう・おんがく」「しゃかい」「りか」「えいご」「終わりの会」「自由研究」などの授業の科目に見立てて、原画、ポスター、装丁本、書など約140点が紹介されています。

「プロローグ」の解説には、安野さんが初めてヨーロッパ旅行をしたときに会ったパリの青年の「勉強をすることはインポートではないんだよ、インタレストなんだよ」という言葉が紹介されていました。なんでも独学でやってみた安野さんの作品を通して、いろいろなインタレストの種を探してみようと書かれています。

絵本の原画は、1970～90年代の作品がたくさん展示されていて、そえられた文章を読みながら楽しめます。「こくご」で展示されていたのは『かげぼうし』(富山房 1976年)です。寒い冬の街にいる「マッチ売りの少女」と、黒一色の切り絵で描かれたかげぼうしの国の「みはり番」の不思議な物語です。

「しゃかい」の『蚤の市』(童話屋 1983年)は、いろいろな国の蚤の市で売られている、食器や楽器や野菜や道具やおもちゃなどが細かく描かれていて見るのが楽しい作品です。「りか」の『天動説の絵本ーてんがうごいていたころのはなしー』(福音館書店 1979年)は、天動説が信じられていた時代、地動説が受け入れられるまでに起こったできごとについての科学絵本です。平らだった地面は最後には球形に描かれています。どの絵も、デザイン化された植物やキューピッドなどのイラストで縁どられていて、その美しさに目を見張りました。

当財団のシンボルマーク(牧神のマーク)は安野さんのデザインです。このようなすばらしい絵を描かれた安野さんにデザインしてもらえた幸運を心からうれしく思いました。(K)

美術館「えき」KYOTO <https://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>

【3】全国のイベント紹介

●「笑いと反骨の画家 田島征彦展」

会期：開催中～5月14日(土)まで

場所：兵庫県公館 県政資料館展示室7

入場料：無料

主催：兵庫県企画県民部秘書広報室広報戦略課

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へ

お問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ぼくたちのスーブ運動』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.139 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は4月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

近くの公園をウォーキングしていて目にしたポスターのことば。「はなれよう。集まれる日のために。」「つけよう。はずせる日のために。」まさに、このとおりだと思いました。自分や周りの大切な人を守るために、自分自身ができることをやっつけていこうと思います。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp